

多摩地域の再造林地に出没する野生動物

新井一司・久保田将之

(緑化森林科)

【要 約】多摩地域の再造林地に出没した野生動物は、ニホンジカが最も多く、次いでニホンザル、イノシシ、タヌキ、ノウサギであり、ニホンザル以外は、再造林地の植栽木を摂食、あるいはシカ柵ネットを噛み切るなどの被害を及ぼす可能性が極めて高い。

【目 的】

多摩地域では、森林循環促進事業などによって、毎年、50ha 規模の皆伐が行われ、スギ、ヒノキなどの苗木が植栽されている。この植栽木を加害する主な野生動物はニホンジカである。近年、ニホンジカ以外にノウサギやイノシシ、ニホンカモシカによる摂食などの直接被害、化学繊維製のシカ柵のネットがタヌキなどの小動物によって噛み切られ、その穴からニホンジカが侵入するという間接的な被害が確認されているが、これらの野生動物が再造林地に出没する頻度や年変動については、不明である。そこで、再造林地に配置したセンサーカメラの画像から、これらの実態を明らかにし、被害対策に活用する。

【方 法】

センサーカメラは、HC500 (Reconyx 製) を用い、檜原村 2 林地、青梅市 1 林地、八王子市 1 林地の再造林地に、奥多摩町では主伐を自粛しているため広葉樹林の 1 林地、計 5 林地において、各 2～3 台配置した (図 1)。2012 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日までの 8 年間に撮影されたすべての野生動物について、1 年間ごとの延べ撮影頭数を求めた。

【成果の概要】

1. 各野生動物について、1 年間に撮影された延べ撮影頭数の 5 林地の平均値を表 1 に示した。ニホンジカは 93.3 頭/年と最も多く、次いでニホンザル、イノシシ、タヌキ、ノウサギとなっており、ニホンザル以外は、再造林地で加害する可能性が極めて高いといえる。これに続くニホンカモシカは、7.8 頭/年とニホンジカの 1/10 以下と少なかった。ツキノワグマは、1.6 頭/年とニホンジカの 1/50 以下と極めて少なかった。
2. 図 2 に延べ撮影頭数の経年変化を示した。ニホンジカは、すべての林地で 0 頭/年になることはなく、変動しながら 100 頭/年前後で推移していた。これに対し、イノシシは奥多摩と檜原 A で 0 頭/年になる年もあり、かつ変動が少なかった。ノウサギもイノシシとほぼ同様の推移であった。一方、タヌキは、檜原 B のみ 2017 年と 2018 年に 100 頭/年以上と多数撮影されており、その画像や撮影時間から同一個体がテリトリー内を頻繁に往来して撮影された可能性が示唆され、このような定住個体がシカ柵のネットの噛み切りを行っているかと推測された。

【残された課題・成果の活用・留意点】

センサーカメラの撮影は、2020 年も継続して実施しており、2020 年の結果ならびに昨年度報告した分布状況も加味して、最終報告とする。

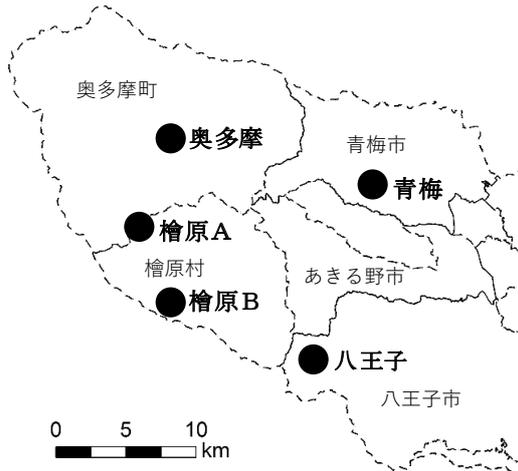
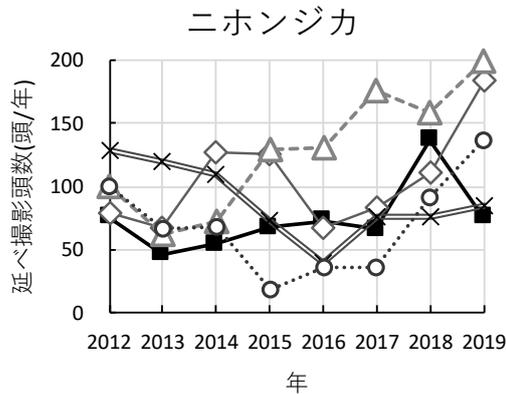


図1 センサーカメラ配置位置図

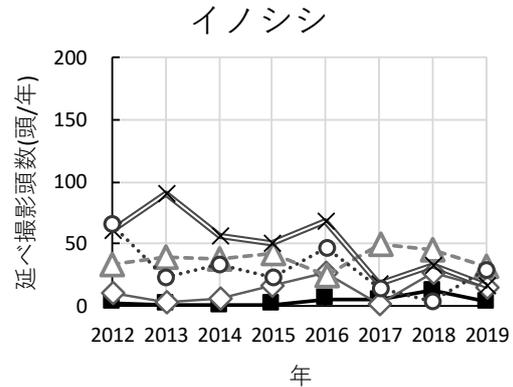
表1 1年間に撮影された延べ撮影頭数の比較

動物名	延べ撮影頭数の平均値 (頭/年)	再造林地における被害
ニホンジカ	93.3	あり
ニホンザル	30.4	—
イノシシ	26.9	稀
タヌキ	18.6	間接被害
ノウサギ	18.4	あり
ニホンカモシカ	7.8	あり
テン	4.7	—
キツネ	3.4	間接被害
アナグマ	2.9	間接被害
ハクビシン	2.3	間接被害
ツキノワグマ	1.6	(成木のクマ剥ぎ)
アライグマ	1.4	間接被害

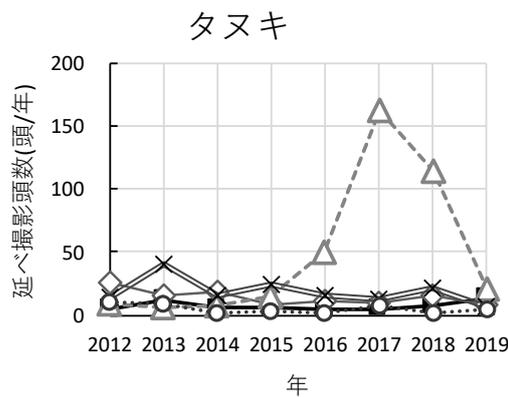
※ 間接被害は、シカ柵のネットの噛み切り



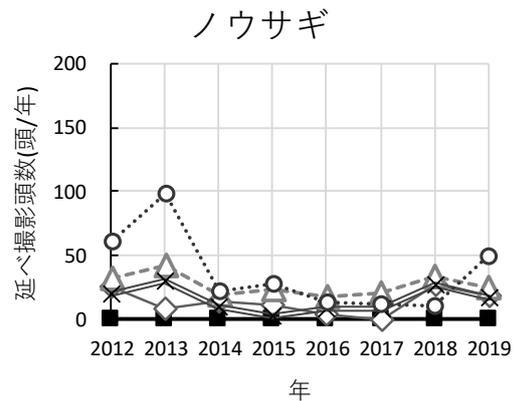
■ 奥多摩 ◇ 檜原A ▲ 檜原B
× 青梅 ○ 八王子



■ 奥多摩 ◇ 檜原A ▲ 檜原B
× 青梅 ○ 八王子



■ 奥多摩 ◇ 檜原A ▲ 檜原B
× 青梅 ○ 八王子



■ 奥多摩 ◇ 檜原A ▲ 檜原B
× 青梅 ○ 八王子

図2 ニホンジカ、イノシシ、タヌキ、ノウサギの年間延べ撮影頭数の推移